

地域中核・特色ある研究大学の振興に係る事業設計委員会 第1回 概要

日時

令和5年1月10日（火）13:00～15:00

場所

文部科学省 15階 科学技術・学術政策局会議室1及びWeb会議

議題

1. 委員会の運営等について
2. 「地域中核・特色ある研究大学の振興」事業設計の進め方について
3. 「地域中核・特色ある研究大学の振興」のポイント及び論点について
4. その他

主な発言

総論

- ・ 国内外の社会課題に大学がどのように貢献するかを示させてほしい。また、地域との関係性を評価の視点に入れ、地域の行政や産業との連携を通じた地域全体のエコシステムを作ることをプラスで評価できるようにしてほしい。そのほか、大学の強みや特色、研究の方向性を発信し、地方自治体や民間企業等が県境も越えて、コミットできるようにしてほしい。
- ・ 申請時に連携大学を特定できない場合もあり、申請については単独でも道はあけておくことが重要。

「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」について

- ・ 各大学が特定の研究分野等で日本を代表していくために、本事業が、大学として研究力を高めていくための仕組み作りや連携構築を支援するものであることを理解してもらうべき。
- ・ 特に、地域の課題解決にあたっては、人文・社会科学も含めた大学の総合知を活用することが必要。また、NPOやNGOなどの地域に根差した組織を取り込むのが望ましい。
- ・ 大学は、基金を活用してどのような大学になりたいかを示す一方で、総合振興パッケージの改定版を踏まえて、国から各大学への期待を示し、対話を通じて、大学と国との契約方針を結び、国はそれを確認するというプロセスを取れないか。
- ・ 各大学の有するリソースを踏まえて、効果的な連携の在り方について国と大学の間で対話するべきではないか。また、複数の大学による法人単位での事業執行を希望する提案があった場合、その是非についても検討すべきではないか。
- ・ 10年後の大学像の実現に向けて、本事業においては、それに向けた最初の5年間を支援するものとして位置付けた上でKPI等を求めていくべき。
- ・ KPIについては、共通的なものに加え、10年後の大学像の実現に向け、大学自らが選択できるようにしたり、独自のものを設定できるようにしてはどうか。

「地域中核・特色ある研究大学の産学官連携・共同研究の施設整備事業」について

- ・ 施設整備事業で採択されても、基金に自動的に採択されると誤解されないようにしてほしい。
- ・ 事業名の中に産学官連携・共同研究とあるが、政策の意図として、どのフェーズの研究を行うことを想定した施設を提案してほしいのか明確にした方が良い。
- ・ 一般的な研究力の強化に必要な施設でなく、大学間連携や産学官連携という視点から研究力の強化につながる施設を支援することを目的にしていることを明確に示すべき。
- ・ 何のための連携が必要か示したほうが良い（研究分野のクリティカルマスの構築、複数大学での産業界とのネットワークを活用した、アンダーワンルーフによる産学の共創空間の創生や、産学共同によるディープテックの起業家群の育成など）。
- ・ 平均 20 億円の施設かもしれないが、申請大学の規模等に応じて、補助上限より低い金額の提案もできるようにしてはどうか。
- ・ 強みや特色ある研究拠点として、所属研究者や支援者の数とともに、実績（論文数・被引用数（top10%論文の割合などを含む）、共同研究件数や 1 件あたりの共同研究費、創業数、特許出願数など）を示させてはどうか。
- ・ 申請大学の社会実装を促進していく観点から、整備する施設が、当該大学が抱える現状の課題や将来の発展性にどのように貢献するのかを審査すると良いのではないか。
- ・ 整備する建物でどのような目標を達成するかを示してもらするなど、審査の観点の具体化を図ることが必要ではないか。

配布資料

1. 「地域中核・特色ある研究大学の振興に係る事業設計委員会」の運営等について
2. 「地域中核・特色ある研究大学の振興」事業設計の進め方について
3. 「地域中核・特色ある研究大学の振興」のポイント及び論点について